



**Data**

監督・脚本：ガブリエレ・ムッチーノ

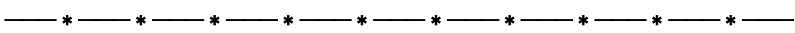
出演：ステファノ・アコルシ/ピエルフランチェスコ・ファヴィーノ/ステファニア・サンドレッシ/イヴァノ・マレスコッティ/クラウディア・ジェリーニ/ヴァレリア・ソラーノ/サンドラ・ミーロ

## 👁️👁️ みどころ

「サルデーテ」は「乾杯」の意味だから、本作は山田洋次監督の『家族はつらいよ』シリーズのイタリア版！？もっとも、原題『A casa tutti bene』は、「家ではみんな良い感じ」という意味で、本作は「偽善の仮面を被って生きてきた大家族の化けの皮が剥がれるまでの物語」というから、興味深い。

結婚50周年を祝う金婚式はめでたい。また、そこに19名の家族が大集合するのもハッピーだが、そこでうごめく人間模様は・・・？金婚式と食事会だけなら一触即発の兆しだけだが、嵐のために2日間も島に閉じ込められると・・・？

さあ、そこで少しずつ剥がされていくことになる化けの皮をたっぷり楽しみ、チラシ通りの「世界共通のドタバタ家族模様」に拍手喝采を送りたい。



## ■□■サルデーテとは？イスキア島とは？■□■

『家族にサルデーテ！イスキア島は大騒動』という邦題がつけられた本作はイタリア映画。「サルデーテ」はイタリア語で「乾杯」のことだが、「イスキア島」ってどこにあるの？その大きさは？ちなみにナポレオンが1769年に生まれたのはコルシカ島。そして没落後『会議は踊る』(31年)で有名な1814年9月～1815年6月までの「ウィーン会議」を経て、最初に流されたのがエルバ島。また、ナポレオンの“百日天下”の後に再度流されたのが、南大西洋の孤島のイギリス領セントヘレナ島だ。他方、『ゴッドファーザー』のドン・ヴィクトールはニューヨークの暗黒街を牛耳っていたが、その出身は地中海最大の島シチリア。また、名作『ニュー・シネマ・パラダイス』(89年)の舞台もそのシチリア

島の小さな村だった。

したがって、有名なシチリア島はもちろん、コルシカ島もセントヘレナ島も私は知っていたが、寡聞にしてイスキア島は知らなかった。本作のチラシには、「世界屈指の美しさを誇るイスキア島」、「名作『太陽がいっぱい』の撮影地でもあるイスキア島」と書かれているが、さてイスキア島はどんな島？

## ■□■イスキア島にはピエトロ&アルバ夫妻の大邸宅が！■□■

本作は、ナポリのすぐ近くにある世界屈指の美しさを誇るイスキア島で起きる、「世界共通のドタバタ家族模様」に拍手喝采！！」を送る映画だが、同時にナポリのすぐ近くにあるイスキア島の観光名所めぐりも兼ねているから、それをたっぷり楽しみたい。ピエトロが島内で営むレストランと大邸宅はピエトロとその妻アルバの大いなる努力の結果手に入れたものらしいが、ピエトロの甥で借金に困っているリッカルドの話では、かなりえげつない手段で入手したとの話も・・・？

ちなみに、歌手のさだまさしは故郷長崎県の近くの小さな島「詩島」（うたじま）を買って別荘を建てたものの、その後映画制作で失敗し、数十億の借金を作ったため、別荘を維持運営できないまま放置していたらしい。しかし、2017年4月2日の「劇的ビフォーアフター 2時間スペシャル」では、見事に復活したさだまさしが予算3500万円ですべてを大改装する姿を放映していた。それは楽しい風景だったが、本作に見るイスキア島に建つピエトロ&アルバ夫妻のレストランと大邸宅はさだまさしの別荘の数十倍も豪華なもの。しかして、今日はピエトロ&アルバ夫妻の金婚式で、そこには家族19名が大集合するようだ。

## ■□■両親の金婚式に家族19名が大集合！■□■

本作導入部は、ピエトロ&アルバ夫妻の金婚式に出席するためにイスキア島に渡る連絡船に、互いの再会を喜び合いながら次々と乗船していく家族たちの姿が描かれる。現在ピエトロがイスキア島で経営しているレストランの後を継いでいるのは、長男のカルロ（ピエルフランチェスコ・ファヴィーノ）と長女のサラ（サブリーナ・インパッチャトーレ）。久しぶりに島に戻ってきた次男のパオロ（ステファノ・アコルシ）は小説家としては成功したものの、妻子と別れ、今は根なし草だ。しかし彼は今、ピエトロ一家の遠い親戚で、初恋の人であったイザベッラ（エレナ・クッチ）と再会できることに心を躍らせていた。女の子のクリスティーナと2人で金婚式に出席するイザベッラは夫との暮らしに不満を抱いていたから、ひょっとしてこの再会から2人の間に何かが生まれるかも・・・？

他方、金婚式にはカルロの前妻のエレットラ（ヴァレリア・ソラーリーノ）とその子供のルナも出席するようだが、それではエレットラと現在の妻ジネーヴラ（カロリーナ・クレシェンティーニ）との間で衝突が起きるのは必至！？そう思っていると、案の定・・・。

また、カルロと一緒に店を継いでいるサラは、女癖の悪い夫ディエゴ（ジャンパオロ・モレリ）の浮気にいつも悩まされていた。現在も夫は若い愛人アリアンナに夢中のようだから、サラはブッダの教えが支えらしい。しかし、この夫婦の行方は？

ガブリエレ・ムッチーノ監督のインタビューによれば、本作の原題『A casa tutti bene』は、「家ではみんな良い感じ」という意味らしい。つまり、本作は「偽善の仮面を被って生きてきた大家族の化けの皮が剥がれるまでの状況を表している」わけだ。連絡船から降りてくる家族をサラたちがお出迎えした後、まずはその足で金婚式を祝うべくサンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ教会に向かい、金婚式を祝う式典は無事に終了。その後は家族そろっての楽しい食事会だ。

## ■食事会での会話は？一触即発のきざしも・・・？■

イタリア人は食事会やパーティが大好きで得意だが、それはイタリア人特有のスピーチ能力（自己主張能力？）にありそう。本作での家族そろっての楽しい夕食会の様子を見ると、つくづくそう思う。もっとも、食事会冒頭のピエトロによる妻への感謝と家族が集まってくれたことの喜びを伝える短いスピーチが終わると、あとはフリートーキング。すると、話題は当然久しぶりに再会するパオロの近況報告から始まったが、根なし草のような彼の生き方にはカルロからの皮肉めいた批判も。そんな姿を見ていると、サラを含む3人の兄弟仲はどうなっているの？

他方、ピエトロの姉マリアには2人の男の子がいたが、長男のサンドロはアルツハイマーを患い妻のベアトリーチェに面倒を見てもらっており、次男のリッカルドは妻のルアナにもうすぐ子供が生まれるというのに借金まみれ。そのため、ベアトリーチェは今にも爆発しそうだし、リッカルドとルアナはピエトロに対する借金を頼むつもりで金婚式に出席したものの、それを申し込むタイミングは難しいし、やっと申し入れても、いい返事が返ってこないからイライラ状態だ。また、カルロの妻ジネーヴラは金婚式に前妻のエレットラを呼ぶこと自体に反対だったから、エレットラが出席してもエレットラとは一言も口を聞かないようにカルロに申し入れていた。ところが、いざエレットラが娘のルナと共にやってくると、カルロは娘と話すのは当然だという態度で娘との旧交を深めているうえ、隠れてコソコソと（？）エレットラとも話を・・・？これにはジネーヴラが頭にきたのは当然で、食事会後のピエトロの邸宅内はカルロとジネーヴラとの間にかなり不穏な雰囲気・・・。

もっとも、イスキア島での金婚式と食事会は“お開き”の時間が迫っていたから、ここでみんなが別れて帰りのフェリーに乗ってしまえば、出席者同士の無用なトラブルは避けられるはず。そう思っていると、折から吹き始めた強風のためフェリーが欠航になってしまったから、さあ大変。ピエトロ宅では急遽全員のベッドを準備することになったからそれも大変だが、それより大変なのは、各人の思惑。欠航は1日だけ？それとも2日も3日

も続くの？すると俺は・・・？私は・・・？突然の足止めをくらったことによって、19名の家族それぞれの思惑がイスキア島にあるピエトロ&アルバ夫妻の大邸宅の中であれこれと展開していくことに・・・そして、それによって、ガブリエレ・ムッチーノ監督がいうように、次々と大家族の化けの皮がはがれていくことに・・・

## ■□■この大家族のドタバタ模様に驚きつつ、拍手喝采を！■□■

中国第6世代監督の旗手・張元（チャン・ユアン）の『我愛你（ウオ・アイ・ニー/I LOVE YOU）』（03年）のテーマは、犬も喰わないはずの夫婦ゲンカだった。中国四大女優の1人・徐静蕾（シュー・ジンレイ）が夫に対してヒステリックにわめく姿はかなりショックだったが、それによって1組の夫婦喧嘩の根の深さが深刻に浮き彫りにされていた（『シネマ 17』345頁）。そのため、「我愛你」という言葉にトコトンこだわるオンナ心をじっくりと研究するきっかけになった。

それと同じように、①カルロの元妻エレットラと現妻ジネーヴラとの“対決”、②パオロとイザベッラの不倫関係の復活（?）、③借金ができなかったことに切れてしまったリッカルドの妻ルアナの爆発、④サンドロのアルツハイマーの症状に対するベアトリーチェの絶望等々、現実を生きている人間のさまざまな心の葛藤のぶつかり方は深刻だ。山田洋次監督の近時の『家族はつらいよ』シリーズは「家族はつらいよ」といいながら、家族の絆やその温かさを見事に浮き彫りにしていたが、それと同じように、本作でもスクリーン上に登場するこれらの家族の葛藤はたしかに深刻だが、どこかにイタリア的な温かさがあるし、絶望感よりも希望感のほうが強い。それは一体なぜ？

それが本作のテーマだから、ガブリエレ・ムッチーノ監督の狙いを頭におきつつ、“本性を見せていく家族たちの葛藤”をしっかりと楽しみたい。嵐のため、フェリーの欠航は1日に止まらず、2日に及んだが、気象上の嵐はいつか治まるもの。すると、人間の間に生まれた嵐も、それと同じように・・・？

2019（令和元）年7月18日記